



**とつぜん妻が
相続することになりました。**

まるしいたけ

Nおじさんから連絡があった翌日。

妻の実家にSおばさんから連絡があった。

たまたま自宅にいた妹ちゃんが出た。

話の内容は、

「こっちは、みんな集まる時間がなかなかとれないのだから、
こっちの都合に合わせてあなた達が来るのが普通なんだ！」と、強めの口調。

「亡くなった親の意向で話を進めてるのだから、素直に聞いてほしい。」

「こっちは親が亡くなって大変なのよ。」

「何年も連絡してこなかったんだから。」

「素直に来て話し合いをしたほうがいいとおばちゃんは思うのよ。」

「話し合いたくないとか、来たくないとか言ってる場合じゃないのよ。」

勝手な言い分を言ってきた。

別に昨日の段階では、資料（財産目録など）が欲しいと言っただけ。

おまけに、4ヶ月も放置していた上に勝手な日程、こちらもすでに予定が入っていた。
放置になった理由は、Nおじさん曰く、Sおばさんがごねたからである。

本当に勝手だ。

親を亡くしたのは、妻たちも一緒である。

その時は、妹ちゃんは二十歳前。

妻も息子を産んで2ヶ月。

大切な人を亡くすことは悲しいけれど、

元気だった母を突然亡くした妻たちの心情の方が、大変だった僕は思う。

それを僕は近くで見てきた。

でもその中で、Sおばさんに妹ちゃんは
「あなたたちにも悪い話じゃないのよ。」とも言われたらしい。

どうゆうことなんだろう??
お金が入るからという意味なんだろうか??

妹ちゃんも妻の昨日の対応を知っていたので、あらかじめ資料
(財産目録など)を送ってもらってから、3人で話し合いたいことを
伝えと

「こっちで、みんなで集まった時に司法書士さんから話があるから。」

「あなたたちは主導じゃないんだから。」

と、一方的に言うSおばさん。

妹ちゃんは、
「資料(財産目録など)も送って貰えないようだし、今度(3月)は
すでに予定もあるので行けない。」
と、Sおばさんに言い電話を切る。

妹ちゃんから妻に電話。
Sおばさんから電話があった事を報告する。

なんだか、勝手な人たち。

特にSおばさんは、早く財産が欲しいのではないだろうか。
とってしまう行動である。

Sおばさんから襲撃されてしばらく何もなかった、4月中旬。

Kおじさんからメールが妻に届いた。

内容はゴールデンウィーク辺りに集まらないかとのこと。

妻は、実家の兄妹に連絡し都合を確認する。

弟くんの仕事の都合で、5月上旬の一日しか予定がつかない。
そのため、妻たちの予定は5月上旬のゴールデンウィークの初め、
または5月下旬。

そろそろ話し合いをしない事には、妻たちも進まない。

結局、Nおじさんは、妻が「資料（財産目録など）」って、
言い続けるので、連絡を取りたくないらしく、
Kおじさんから連絡がきたのだ。

Kおじさんからの連絡を受けて、妻たち弟妹で相談した結果、
ゴールデンウィークの初めにNおじさん宅へ話し合いに
行くことになった。

4月の終わり。

話し合いまで、あと数日というある日。

僕らは、近所のスーパーで夕飯の買い物をしていた。

すると、突然妻の携帯電話が鳴る。

妹ちゃんから電話だ。

だいぶ慌てている。

落ち着いて話を聞いていると、Sおばさんが妻の実家に電話をしてきて、お義父さんとエキサイトしている。とのこと。

電話越しに「私は関係ないでしょう！」とお義父さんの大きな声が聞こえてくる。

さらに聞いてみると、過去のお義母さん葬儀の話を持ち出してきて、お義父さんに文句を言ってきているようだ。

妻は、少しイラだちながらも、とりあえずそんな電話だったら、黙って切ってしまうよう妹ちゃんに指示を出す。

この前も襲撃があったばかりだから、お義父さんには、Sおばさんからの電話は妻から取次がない様にと行ってあったのに出てしまったようだ。

お義父さんも「電話が来ても黙って切るから出ない。」
って言っていたのに・・・。

妻と妹ちゃんがやり取りしている間に電話は切れた。

妻がお義父さんに電話の内容を聞いてみると、
今回の相続に加担しているのか？
それとお義母さんの葬儀の一件を言って来たようだ。
そんな話がループしてきたので切ったとのこと。

お義父さんは、相続に関して、権利が自分にはないから関係ない事を伝え、お義母さんの葬儀の一件に関しては、妻たちは関係ないと答えたようだった。

妻のからかなり怒られたお義父さんは、
Sおばさんの電話番号を着信拒否にしたのは言うまでもない。

おそらくSおばさんは、妻たちに相続の指示をお義父さんがしていると思って探りを入れてきたとようだ。

妻の実家にも録音する機器を入れようと僕は思った。

妹ちゃんから連絡を受け、お義父さんから事情を確認してから、妻はNおじさんに連絡をした。

Sおばさんの行動に対する苦言である。

Nおじさんはすぐに電話に出た。

「あと数日でそっちに行って、話し合いをするっていうのに、Sおばさんは実家に電話をして、今回の相続に関係ないお父さんに電話するというのはどうなっているのか??」と、妻はNおじさんに言う。

Nおじさんは、「それはダメなんだ。なんでそんな事したんだろう？」と、自分は関係ないという主張をしている。

なんだか、先日の強気なNおじさんと違い、妙に腰が低い。
録音しながら通話しているため、横で聞いている僕にも分かる違和感。
僕よりも妻は感じているようだった。

妻は、「窓口は自分なのでそれ以外には連絡をしないでもらいたい。」と伝える。

Nおじさんは「それは分かっている。
なんでSはそんなことしたんだろう」と言う。

先日の強気な態度から一転した他人事のような
Nおじさんの態度に妻も少し怒ってきて、
「そんなことでは今度の話し合いには行けない」と言う。

Nおじさんは「まーそれは仕方ないなあ。Kも新幹線を
予約しているようだから、こっちからKには連絡する。」と
話し合いもどうでもよいような態度で言う。

「わかった。」と妻は言い、そのまま電話を切った。

しかし、妻はNおじさんに文句を言ったことで、
少し落ち着いてくると、「やっぱり行こうかな。」と言う。

Kおじさんは新幹線も予約しているんだし、
これ以上話し合いを延ばすのは得策ではないと思ったようだ。

Nおじさんには大分文句を言ったので、Kおじさんに連絡をする。

プープープー

話中で繋がらない。

15分後やっと繋がる。

「兄貴から連絡があって、今度の話し合いが無くなったからとそれだけ連絡があったから、どうしたのかと思っていたよ。」との事。

「え？それだけ??」と妻。
Nおじさんは詳しい事情をKおじさんに伝えていないらしい。

妻は、今回の事情を細かくKおじさんに伝えた。

Kおじさんも「あと数日で、あつて話をするんだから、別にそんな事しなくても。」と、苦笑していた。

妻から、予定通りそっちに行くことを伝えると、
Kおじさんは「新幹線もとってあるからどうしようと思っていたよ。兄貴には伝えておくよ。」と、
Kおじさんから言われ電話を切った。

予定通り5月頭にNおじさん宅に行く事になる。

妻は、なんかやっぱりおかしい。と言っていた。
NおじさんとSおばさんはつながっている。と疑惑を持ったようだった。

Sおばさんの襲撃から数日経ってゴールデンウィークに入り、
僕らは話し合いの前日、妻の実家に着いた。

いよいよ明日はNおじさん宅に行く。
僕の車より弟くんの車の方が大きいので、弟くんの車で行く。

先日ETCも付けたらしいし。

行くのは、妻と弟くんと妹ちゃんと僕の4人。

14時の待ち合わせだから、余裕を持って11時頃実家を出発。

途中道の駅で、休憩と昼食をとって時間ちょうど位で
Nおじさん宅に到着。お盆の時と違い体感的に早く着いた。

ICレコーダーを妹ちゃんのバックに仕込んでいると目の前を
凄いスピードで通る車。

Sおばさんだ。

そのままこちらには目を向けずNおじさん宅に入っていった。

妻たちも準備ができ、Nおじさん宅に入っていった。

僕は相続人ではないので、中に入れない。
その辺をうろうろしながら、時間を過ごすつもりで本持参してきた。

もちろん中の内容はわからないので、話し合いが終わって戻ってきた妻たちから聞いた内容を書くことになる。

とりあえず僕は、おじいちゃんが経営していた公益法人のベンチで読書を始めた。

ベンチで読書を始めて約30分。
予想以上に風が強くて、外で読書をするには、ひどい状態。

車に戻って読んでも、暑くて5分とられない。

結局読書を諦め、散歩を始めた。

Nおじさん宅をグルっと一周。
去年のおじいちゃんのお別れの時にもきたが、その時にはゆっくり見ることができなかった。

小さい道路から入って、古い平屋。Nおじさんの息子夫妻が住んでいる。
少し高台に上がり、Nおじさんが住んでいる、新しい2階建ての家。
妻たちはそこで話し合いをしている。

新しい家の前の小道を歩いて行くと、おじいちゃんが理事長をしていた公益法人の建物が見える。

何もないので、とりあえず公益法人の建物の方まで行ってみる。

近くによると、大きな建物があり、その裏にも少し小さな建物があった。奥の建物は最近建ったようだ。

ひとけも無く、あまり覗いていると変な人のように思われても嫌なので早々に立ち去ることにした。

公益法人の建物は、高台の上であり、かなり見晴らしはいい。

そこから、野球グラウンドや体育館が見える。奥にはプールも見える。

先日、お義父さんが言っていたが、その体育館や野球グラウンドの辺りもおじいちゃんの土地で、だいぶ前に公的機関へ売却したらしい。

ここにいるよりはいいと思い、体育館の方まで行ってみる。

ゴールデンウィークのせいか、本当に人がいない。

プールを覗いていると、結構ボロボロ。
もう数年使っている形跡が無かった。

体育館にもひとけ無し。

一角に小さな図書館があり、中から子供の声がしている。
どうやら、人はいる様だ。

やはり周りには何もないので、すぐ退屈になる。
仕方ないので、車に戻りドアを開けて読書を始めた。

僕は中に入れないので協議の様子がわからない。
ここからは妻たちがNおじさん宅に入ってからの内容である。

中に入った妻たちは、知らない人が2人いることに気がつく。

Nおじさん、Sおばさん、Kおじさん。
そのほかは、知らないおばさん（おばあさん？）が2人。

席に着きすぐに、2人のおばさんが話し出す。

「おめえたち、くだらないこと言ってねえで黙ってハンコ付いて放棄して帰れ！！」

どうやら、Nおじさんたちに吹きこまれた近所の親戚が物言いにきたらしい。

「ここは代々長男がすべてを継ぐんだ、おめえらには権利がねえんだ！！」

かなりの勢いでいろいろ言われたが、方言が凄くてほとんどわからなかったらしい。
でも、何だか怒りまくって言っていることは分かったようだ。

内容的には、すべて長男であるNおじさんが相続するから、お前達（妻たちには向けて）は放棄しろということのようである。

そんなこと言われても、放棄する気のない妻たちは、よくわからない方言を連発するおばさんたちのことを黙って見ていた。

その間Nおじさんたちもほとんど話をすること無く黙っていた。

暫くすると、黙って聞いていた妻たちをねじ伏せたと思ったおばさんたちは、スッキリしたように帰って行った。

もちろん妻たちは、知らないおばさんたちの言うことには全く効果も強制力も無いことは分かっていた。

ただ、めんどくさいから黙っているだけだった。

めんどくさい親戚のおばさんも帰って行ったので、本題に入る。

要するにNおじさん達も、ハンコ付いて帰れ的な空気を出しながらも、一応「案」だからと言ってNおじさん達の「遺産分割協議書」を出して来た。

Nおじさんが話し始める。

「この土地は代々長男が継いでいる。本来であればお前たち（妻たち3人）がくるところではない。妹（亡くなったお義母さん）の子供たちだからこのくらいを遺留分としてやるから、これ以上は無い。」

「お前たちのおばあちゃんの分の遺言は無い。けれども、おじいちゃんのはあったが、無くなった。多分いつもの書斎にあったはずなんだが、葬儀の準備やなんかで全部ひっくり返したが、あったはずなのに無くなったようだ。ただ、遺言にはお前たちを恨んでいる。本当はお前たちにやる財産は一円も無い。と遺言にも書いていたし、常日頃から言っていた。」

「親（おじいちゃん）にはマイナス分（借金）があって、俺が払ってやった。だから、財産は無い。」

大分、上から目線の言い方。来るところではないっていうのは、お義母さんの葬儀からの確執があったからの言葉のようだ。

でも、前に聞いていたYさんの言葉とは全く異なる言葉。
おばあちゃんから聞いた言葉ではあるが、
「疎遠になった妻たちを気にかけていた。」と
Yさんからは聞いていた。

そんなことを妻が考えてるときに、Sおばさんが
「両親の介護をやって、食事の準備やらなにやらやって
預金の管理まで任されて大変だったんだ。」と
涙ながらに言っていた。

結局、出てきた紙はペラ紙が3枚。
おばあちゃんの分とおじいちゃんので分けて作ってある。
あとなぜかある、ひいおじいちゃんの分。

財産の総額がどのくらいで、何がどうなっているかの
財産目録の開示も一切無し。

内容は、Sおばさん◎◎円。
Kおじさん◎◎円。
妻 〇〇円。
弟くん 〇〇円。
妹ちゃん 〇〇円。

のこりの全てはNおじさんになるという言葉の入った紙。
Nおじさん分は金額すら全く無し。

金額も妻たち3人分を足しても、SおばさんKおじさんの半分以下。

「遺留分」って何??

「遺言」はあったけど無いって何??無くしたの???

「恨んでた」って??

「借金」って??

と、思っても、妻たち3人とも何をどの様に突っ込んでいいのかがわからない。

でも、かなり上からの物言いに妻たちは怒っていた。

その作成された

「遺産分割協議書」を持ってNおじさん宅から出てくる。

一旦、これを見ながら3人で話し合う、
と言って出て来たようだ。

Nおじさんの言葉で確認できたことは3点あった。

- 1、遺留分としてやる。という発言。
 - 2、おじいちゃんのあったはずの遺言。
 - 3、借金があってNおじさんが肩代わりした。
- いずれの発言も、妻たちには渡したくないことが伺える。

ハンコを押すのには実印がいるのだが、
妻と妹ちゃんは作っていない。

最初の連絡が来たときに実印を準備するように
言われていたのだが、「持っていなきゃハンコを付けないじゃん。」
と言って作ってすらいない。

もちろん今回のNおじさん宅に行くにも、ハンコを用意していない。

妻たち3人は車に戻り、とりあえず帰って話し合おうということで、
実家に戻る事にした。

帰り道。

高速道路に乗るまで約1時間。

その後、高速道路に乗って約1時間で妻の実家に着く予定。

妻、弟くん、妹ちゃんと僕は車で会議。

3人は中での出来事を僕に話してくれた。

待ち伏せしていたお婆さんの事や、中の協議の様子。

案と言ってNおじさんが出して来た「遺産分割協議書」のこと。

Nおじさんの上からの物言いのことや、
「借金」や「無くなった遺言書」や「遺留分」のことも。

でも、帰って話し合いをするにも、内容が薄すぎてできない。
という結論に達した。

その後、お義父さんにも聞いてみることになり、電話をする。

やはり、お義父さんの意見も資料がなさすぎて帰っても
何もできない。と言われる。

Nおじさん宅を出発して約一時間。もうすぐ高速道路の入り口まで
というところまで来て、Nおじさん宅に戻る事にした。

戻り始めて約一時間後、Nおじさん宅に再度到着。

妻たち3人でNおじさん宅に入っていった。

僕はまた一人お留守番。
夕方になり、気温も下がり読書もしやすくなった。

中には、Nおじさん、Sおばさん、Kおじさんの
3人共いたようだ。

妹ちゃんから、あの「遺産分割協議書」だけでは
わからないので、他の書類を見せて欲しいことを伝える。

土地⇒おじいちゃん所有の分とひいおじいちゃん所有の不動産明細。

金融資産⇒おじいちゃん、おばあちゃん所有の金融機関とその口座番号。

Kおじさんと一緒に確認をした。

すると、Kおじさん名義になっている、養老保険が出てくる。
もちろん、Nおじさんが作成した「遺産分割協議書」にも項目として
掲載すべきものであるが、入っていない。

おじいちゃんが金融機関の偉い人だったこともあり、
メインバンクはこの金融機関のはず。

金融機関の口座に関しては、Nおじさんが確認する。

ひと通り確認し、妻たちはこれが全てだと納得したが、
念のために、残高証明書をほしいと伝えたところ、Nおじさんは
快く「そうだな。今から連絡してみるか。」と言う。

現在金融機関の支店長をしているのが、
親戚であるというので、電話で連絡をした。

すると、支店長さんが現在工作中なので、
来てくれる事になった。

なかなか来ない支店長さん。
妻たちは、あとは任せて帰ろうとしたところ
支店長さん到着。

支店長さんは中に入り、Nおじさんが妻たちが
残高証明がほしい事を伝える。
そして卓上に出ていた書類を見て、まず一言。

「あれ？おばあちゃんの口座ありましたよね??」

周りの空気が変わる。

無言になるNおじさん。
動揺してうつむいたまま固まるSおばさん。

動揺する人たちを見て、妻がかなり疑い始める。

明らかに動揺している、NおじさんとSおばさん。

Kおじさんは黙々と口座番号と名義の確認をしている。

あまりにも不審に思った妻は、以前から依頼をしていた、

資料の一つ「過去3年分の残高履歴」をNおじさんに再度依頼をすると、「お金がかかる」とか「必要ない」と言い出す。

それでも引き下がらない妻。

その場に金融機関の支店長さんがいたので、Nおじさんは
「口座を確認できる書類で、残高証明だけでいいだろう。」
と言い、支店長さんへ依頼。

支店長さんは、
「それなら、ゴールデンウィーク明けには用意できます。」
との回答。

妻も全く無いよりはいいだろうと思い、渋々了承。
Nおじさんに届き次第、妻たちに送ってもらえることになった。

見せてもらった書類をコピーしてもらい、帰ることになる。

辺りはすっかり暗くなっていて、Kおじさんだけが「帰り道気を付けて」と、
見送りに出てきてくれた。

帰り道は弟くんも運転。
僕が助手席。
妻と妹ちゃんは後ろの席。

とりあえず、Nおじさん宅が見えなくなった時に、妹ちゃんが実家のお義父さんに連絡。

今から帰ることを伝える。

妻たち3人は中での様子を話し始めた。

気になったのは3点。

- 1、細かな財産目録がないところ。
- 2、支店長さんの一言で固まったところ。
- 3、結局遺言はどうなったのか。

結局、謎多く残して帰る事になった。

次回は今月末。

元々、ゴールデンウィークか5月末なら大丈夫と
予定を知らせていたのだが、
「そっちが（妻たち）その日にちなら大丈夫だって
言ってたんだから、今度は5月末でいいだろう。」
小バカにされて言われその日になった。

それまでに、今回の疑問点と謎を整理しなければならない。

Nおじさん宅行った時にICレコーダーを仕込んで行ったのだが、
仕込んだ場所が悪く、ほとんどノイズで聞き取れなかった。

おまけに、容量不足で途中で切れてる始末。

これでは話にならないので、ICレコーダーを買いに行った。

機能として欲しいのは、音楽録音では無いので、
圧縮率を上げて長時間録音出来ること。

それとケーブル不要でUSB接続できること。
WinとMac対応になっていること。（メインがMacなので）
プラグインパワーの外部マイクが使えること。
できれば、バッテリー付き。

あと、忘れてはいけないことは、値段が手頃である事。

妻と近所の量販店に行き、買ってきた。

条件を見たして購入したのはSONY製のICレコーダーとマイク。

ソニーICレコーダー ICD-UX200

<http://www.sony.jp/ic-recorder/products/ICD-UX200/>

ソニーICレコーダー用タイピンマイク ECM-C10

<http://www.sony.jp/cat/products/ECM-C10/index.html/>

レコーダーは単4型充電電池も付属でUSBで充電可能。
フォルダできて、パソコンにUSB接続すると、フォルダで
閲覧管理も可能。ファイル名も日本語にも対応。

パソコンにある音源もUSBでICレコーダーへ移動もできる。

最近のICレコーダーは便利になったもんだ。

出費は合わせて約一万円（当時）。

まーいいところでしょう。

ゴールデンウィークも終盤。

僕らは帰ることになるのだが、今後の
コミュニケーションツールとして、Skypeを入れることにした。

まずは、僕のパソコンに。
それから、妹ちゃんとお義父さんのパソコン。

妻のiPodTouchにも入れた。

妹ちゃんのパソコンにはWebカメラが無いので、
ついでに購入。ヘッドセットも付属で2,000円弱。

とりあえずPCにセット。
テストも良好。

これで、帰っても無料通話が可能になった。

意外と使える機能を発見した。
それはファイル転送。
相手先のハードディスクに余裕があれば、
容量制限は無いらしい。速度は回線に依存するが。

これでPDFはもちろん、音声や動画も転送して
共有できる様になった。

今回の話し合いは5月初めのゴールデンウィーク。
その話し合いの最後に次回は5月下旬にすることに
ほぼ強制的に決められてしまっていた。

5月中旬のKおじさんからの電話。

5月末の話し合いがNおじさんの都合でだめになったので
6月中旬でもよいか確認したいとのこと。

6月中旬はちょうどおばあちゃんの1周忌にあたる。

妻は、法事とかはどうなっているのかと確認すると、
みんな（親戚一同）集まるのでいいのではないかとの回答。

どうやら法事の席か、法事の後に話し合いをするらしい。

しかし、妻は自分たちには、一周忌法要の連絡は一切
来ていないことをKおじさんに話す。

Kおじさんは「手紙はっていない？」と妻に聞く。

妻は、手紙も電話も全くないことを告げる。

黙るKおじさん。

妻としては、前回の話し合いで親戚につるし上げにあっているのに、そんなアウェーには行きたくない。

なおさら今回はおばあちゃんの一週忌。
親戚一同が集まってお酒も入る。
確実に妻たちには不利な状況になると思われる。

それは言わないにしても、即答はできないので、
弟くんと妹ちゃんに確認してから連絡することを伝えた。

話の最後に、前回の話し合いで出た金融機関の書類は
どうなっているのかを妻はKおじさんに尋ねる。

Kおじさんは全く関与していないのでわからないとのこと。
Nおじさんに確認するとの回答。

やはりKおじさんからは思うような回答が返ってこなかった。

妻はわざわざ一週忌に合わせて日にちを変えてまで
協議をするのか、金融機関の支店長がすぐ出せると言っていた
書類もすぐに送ってこないのか疑問が怒りに代わり
Nおじさんに直接電話することを思っていたようだ。

Kおじさんの電話を終えた妻は、妹ちゃんに電話をする。

妹ちゃん、弟くんを確認してもやはり前回の事もあり、6月中旬は悪者にされそうなので行きたくないとのこと。

ここで、妻はNおじさんはなぜ直接連絡をしてこないのかと疑問に思った。妹ちゃんと電話をしながら、Nおじさんに直接電話をして次回の話し合いが無くなった理由と書類がどうなっているのか確認をすることにした。

僕はここである提案を試みる。
スカイプを使って、妻とNおじさんの通話を妻の実家にリアルタイムに転送してみたい。と。

接続的には、妻の携帯電話に録音ケーブルをつないでいる。通常はそこからICレコーダーに入りそのまま録音している。

今回はそこからさらに、ICレコーダーのヘッドホン出力からパソコンのマイク入力にケーブルを繋ぎ、スカイプで実家まで送ってみんなで音声を聞き僕はiPodtouchで聞く。というプラン。

早速準備をしてテスト。

一発OK。

妻の実家では、妹ちゃんとお義父さんが待機。
妻とNおじさんの会話のみを聞くことになった。
妹ちゃんたちの声はスカイプで僕のヘッドホンに聞こえる。

僕は妻の実家の妹ちゃんたちとスカイプとチャットしながら、
妻とNおじさんの会話を聞くということになった。

スカイプも接続して、準備もOK。

妻はNおじさんに電話をする。
確認することは2点。
・5月下旬の話し合いが急にだめになった理由。
・ゴールデンウィークで出てきた金融機関の支店長さんに
依頼した書類の状況。

夜も遅いし長話になってもいやなので手短かに連絡する予定。

Nおじさんはすぐに電話に出た。

まず、妻が5月下旬の話し合いができなくなった理由を聞く。
Nおじさんの仕事が忙しく難しいとのこと。

でもその理由では納得できない妻。
わざわざ法事の席で相続の話し合いをする必要性をNおじさんに問いただす。

「法事の席では話し合いをしないけれども、法事の後にしようと思っている。」
と答えるNおじさん。

「一周忌の連絡も無いのに伺えるはずがないでしょ。」と言う妻。

「ああそれじゃ、ぜひ来て下さい。」と軽い返事をするNおじさん。

軽い返事に怒った妻は「正式な案内も無いのに行けるわけないでしょ。」
Nおじさんに言った。

黙るNおじさん。

お義母さんの実家では、法事の「お知らせ」と「案内」は別物で
正式な「案内」がないと行っても席の用意すらないらしい。
だから「案内」に妻がこだわっているのはそこにある。

Nおじさんはもちろんそれがわかったいるから黙ったのだ。

続いて書類について確認する。

こちらも忙しくてやっていないとのこと。

金融機関の支店長さんはすぐにできると話し合いの場で言っていたが、支店長さんからの連絡が無いとの回答。

妻も、「それではいつになったらできるのか？」尋ねるも、忙しくてわからないとNおじさんは回答する。

「でも、そちらが準備すると言ったことだからね。」と妻は詰め寄る。
「忙しいから・・・。」と、一点張りするNおじさん。

しばらくこのやり取りが続く。

妻は「権利があるからきちんと確認をしたい。」と言うと、Nおじさんが「権利、権利って言ってるけどお前たちに何の権利があるんだ！」と怒り口調で言う。

だんだん熱くなってくるNおじさん。

「じゃあ、言うけど、おばあちゃんが亡くなった連絡も一切無くて、連絡してきたかと思ったら、おばあちゃんの預金とかが残っていて、相続する権利があるって連絡してきたのはそっちでしょ。」
と、妻もエキサイトして来た。

すると言いつけないNおじさん。

妹ちゃんから「おねえちゃん。熱くなってる、落ち着いて。」
と、会話は僕には入ってくるが、妻には聞こえない。
チャットを使って妻に連絡するも、会話している妻にあまり余裕がないので、なかなか伝わらないが、妻を落ち着かせることだけできた。

熱くなったNおじさんは、
「お前たちに言いたいことがある。」といい始める。

妻は、「言いたい事ってなに??」と尋ねても、
「会ってから言う」と言う。

妻も、気になってしょうがないらしく大分食いついて
Nおじさんに聞くもNおじさんは、
最後まで「会ってから言う」の一点張りだった。

しょうがないので妻は、再度書類についてNおじさんに
納期について確認する。

Nおじさんは大分熱くなっていて、
「忙しいから!!」と言い勝手に電話を切った。

かなり爆笑の外野。
「なんか怒って電話切ったよ」と妹ちゃんの声が僕に聞こえてくる。

妻もかなり怒りまくって、スカイプの会話に入ってくる。

「Nおじさん勝手に電話切って！！ありえないでしょ」
と妻はかなり納得できない様子だった。

Nおじさんとの電話を終えた妻は、
すぐにKおじさんに電話をするといひ始めた。

妹ちゃんも結局確認したい書類のことができなかったので、
再度Kおじさん経由で伝えたほうが良いといひ、Kおじさんに電話をする。

妻はKおじさんに電話をする。
先ほど、Kおじさんと電話してすぐにNおじさんに電話して
書類のことを聞いたが、「忙しいから！」と言ひて教えて
もらえなかったことを話し、おまけに突然電話を切られたことも伝えた。

すると、Kおじさんは
「直接金融機関の支店長さんに連絡してみたら？」と言ひ。
「ゴールデンウィークに会ひて書類の話もしているし、
面識もあるので大丈夫だろう。」とのこと。

結局、法事の案内が無い事を理由に6月中旬の話し合ひは
NGであることをKおじさんに告げる。
勿論、吊るし上げられるからとは言わないw

その後はスカイプで家族会議を行ったが、Kおじさんも間に
入ひてやりとりするのが、めんどくさくなつたんだろう。
という事にしてその日は終わった。

妻は、ある作戦をすでに立てていて早々に寝てしまった。

「まるさん」へつづく

【収録話】

・ まるに 22-40 怒涛の五月 協議編

- 【第二十二話】 襲撃される。
- 【第二十三話】 メールが届く。
- 【第二十四話】 またまた襲撃される。
- 【第二十五話】 こちらからの苦言。
- 【第二十六話】 やっぱり行こうか。
- 【第二十七話】 話し合いに行こう。
- 【第二十八話】 かなりヒマ。
- 【第二十九話】 待ち伏せされる。
- 【第三十話】 さて本題。
- 【第三十一話】 帰り道。
- 【第三十二話】 Nおじさん宅に戻る。
- 【第三十三話】 動揺。
- 【第三十四話】 今度こそ帰り道。
- 【第三十五話】 設備投資をしよう。その2
- 【第三十六話】 コミュニケーションツール。
- 【第三十七話】 次回の予定。
- 【第三十八話】 便利なスカイプ。
- 【第三十九話】 切られた電話。
- 【第四十話】 怒りの矛先。